

## 編集後記

県立広島大学保健福祉学部誌「人間と科学」第19巻第1号をお届けします。本号では、本学名誉教授の中谷隆先生、本年度定年を迎えられる吐師先生より、ご寄稿をいただきました。また、多くの方々が様々な学術分野から投稿してくださり、原著2編、報告5編、資料1編を掲載することができました。

保健・医療・福祉分野の研究は、現場での実践や専門職教育等に還元できる貴重な知見をもたらします。研究とは、科学的でなければならず、そのためには方法論が合理的である必要があります。森博嗣（2011）の著書「科学的とはどういう意味か」では、「科学とは『誰にでも再現ができるもの』である。また、この誰にでも再現できるというステップを踏むシステムこそが『科学的』という意味だ。（p.75）」「『他者による再現性』を確認するためには、同じ分野の学者、研究者、専門家が相互に情報交換をしなければならない（p.76）」と論述されています。研究によって得られた科学的知見が、同じ分野の専門家によって実践に適用されていくなかでさらに科学的根拠が強まり、それらの科学的知見・根拠を統合することでさらに科学的知見・根拠が深化していくと考えられます。学術雑誌である本誌に掲載された論文は、保健・医療・福祉分野の実践を発展させていく価値ある科学的な論文です。本誌の読者により、論文の成果が保健・医療・福祉分野の実践により多く適用され、科学的知見と現場での実践が一層発展していくことを願っています。

本号の完成までに、学術誌編集委員会をはじめ、査読者の皆様に多くのお力添えをいただきましたこと、厚く御礼申し上げます。本誌の学術雑誌としての水準の維持・発展のため、次号においても多くの皆様からのご投稿、そして査読へのご協力をよろしくお願い申し上げます。

学術誌編集委員会

委員長 黒田 寿美恵